

学位研究 第2号 平成6年12月 (論文)

[学位授与機構研究紀要]

アメリカにおける学外学位課程の展開状況

An Overview of External Degree Programs in U.S.A.

館 昭

Akira TACHI

アメリカにおける学外学位課程の展開状況

館 昭*

はじめに

本稿ではアメリカ合衆国（以下、アメリカ）で展開している学外学位課程（external degree program）について、その状況を概観する。アメリカで学外学位の展開はこの20年ほどのこと、学外学位という言葉の使われ方は様々である。しかし、およそ①当該大学の外という意味での「学外」で学習した個人に対して、評価によって授与する学位、あるいは②通常の面接形態の授業（教室授業）による履修を課さない教育課程という意味での「学外」課程の修了者に対して授与する学位を指して用いられている。

日本では学外学位という概念は使われていないが、①には大学の授与するいわゆる「論文博士」の学位と、短期大学卒業者等が科目等履修生等で単位累積した場合の学位授与機構の学士学位が該当し、②に該当する制度はないが、それに近い制度として、私立大学通信教育と放送大学の学士学位がある。しかし、その態様や規模には大きな違いがあるようである。

アメリカでは学外学位課程をもつ大学が数百校存在するとされ、また試験や多様な評価システムを用いて学外の学習を学位につながるものとして単位認定する仕組みも相当に整備されている。したがって、アメリカの学外学位の状況を知ることは、今後の日本の学位制度を考える上で重要なことと思われる。ただし、学外学位は、研究対象としてはまったく新しい分野であり、ここで報告できることはほんの初歩的な段階のものであることをお断りしておきたい。

1. イギリスにおける学外学位の発祥と展開

学外学位の制度や言葉の起源は、19世紀イギリスのロンドン大学であると考えられる。安原義仁の研究（安原、1993, p. 19—27）によれば、1836年に設立されたロンドン大学では、ロンドン大学の構成要素であるユニバーシティ及びキングズ両カレッジの学生以外にも、ロンドン大学の認定する教育機関で2年間の教育を受け、その実施する学位試験に合格すれば学位を与えた。この試験による学位授与は、1858年には医学を除いて、認定機関以外の学生にも拡大され、1900年には、ロンドン大学の教師の指導の下にロンドン大学によって認定された学習コースを履修する学内学生（internal students）に対して、ロンドン大学の学位試験に向けて学ぶそれ以外の学生として学外

*学位授与機構審査研究部教授

〔この論文は、平成5年度社団法人東京俱楽部文化助成金にもとづく米国・英国訪問調査（本誌黒羽報告）及び平成5年度文部省短期在外研究の成果の一部である。〕

学生 (external students) のカテゴリーが生まれ、それに対応して学内学位、学外学位 (internal degree, external degree) という概念も使われるようになったという。

この制度は、基本的には今日でも維持されており、The University of London External System とよばれている。(London, 1994, p. 27) この制度で学位を受けようとする者はまず登録が必要で、その資格は一般の大学入学資格と同じである。学内学生と同様最低3年の学習期間が課されるが、一般により長い期間がかかる。専門ごとに学習すべきコースが設定されており、コースの学習の修了時点で試験を受ける。この試験のレベルは、学内学位と同水準である。取得できる学位は、学士号としては科学学士（経済）(BSc (Eco)), 法学士 (LLB), 学芸学士 (BA), 音楽学士 (BMus), 神学士 (BD) があり、また研究者用の学位である学問修士 (MPhil), 学問博士 (PhD) の取得も可能である。

このようにイギリスには早くから①のタイプの学外学位が存在したが、学習の評価は当該大学の実施する試験のみによるもので、次にみる多様な評価を織りませた現代のアメリカの学外学位とは大部趣を異にしている。

多様な評価を織りませた単位認定制度としては、イギリスには、学位授与評議会 (Council for National Academic Awards, CNAA) が1986年に開発したCATSと呼ばれる単位累積互換制度 (Credit Accumulation and Transfer Scheme) がある。この制度は、大学の授業に標準的な単位制度を持ち込み、大学や高等教育機関間での認定単位の移動が可能な様にするほか、職業あるいは生活で獲得した学習成果を評価し認定するなど、学習の重複無しに学位（学士、修士）に到達できる仕組みを考案したものであった。

その基本原理は「適切な学習は、それがどこでなされたものであっても評価可能のものであれば、評議会の学位・資格につながる単位として認定すべきである」と表現されている。また、「登録以前の学習に対して単位認定を受けることができる。これによって、学生は編入学者としてコース履修と開始できる」、「高等教育機関以外の場所、例えば企業内教育や専門職団体での学習によって単位認定を受けることができる」の2つが最も重要な原則とされる。(Kerr & Pollard, p. 2)

単位の計算は、1週間分の学習量を4単位（日本式の1単位分相当）とし、学士課程3段階と修士課程段階にレベル化される。レベル1, 2, 3それぞれ120単位以上、合計360単位以外の取得が「優等」学位（学士号）の学位取得、修士課程レベル120単位の取得が修士学位の取得につながる。レベル1, 120単位の取得時に出される資格等、中間的な資格も用意されている。

高等教育機関外の学習評価は、(1)学生の学習経験の単位認定 (2)企業内教育訓練の認定(3)職業資格の単位認定によって行われる。(1)は APEL (Assessment of Prior Experiential Learning) とよばれ、学習者自身が自分の学習経験について体系的に検討して申告する制度で、(2), (3)は企業、専門職団体を協力してあらかじめ単位化のための認定をしておくシステムである。

この制度は各大学が実施し、最終的には当該大学の通常授業を受けるわけであるから、完全な学外学位とは呼べないが、アメリカ的意味での学外学位の要素を多分にもった制度ということができよう。また、イギリスには公開大学 (Open University) があり、この大学の学位は1年次の合宿授業が課されるものの通常型の授業を受けることなく学位を取れるので、②のタイプの学外学位大

学といえる。

1992年にC N A Aは解散したが、C N A Aによって開発されたC A T S制度はイギリス高等教育界に拡大し、定着化の傾向を示している。例えばシェフィーフドハーラム大学は大学全体の教育課程をC A T Sに合うように編成しており、またほとんどの大学でC A T Sの単位計算方式が取り入れられている。C N A Aが実施していた企業内教育訓練や職業資格の認定はイギリス公開大学が受け持ち、各大学との活動の調整には、新設の高等教育品質評議会 (Higher Education Quality Council, HEQC) が当たっている。

また、英国職業資格評議会 (N C V Q) などの活動を通じて単位累積互換の考え方、職業資格の分野にも拡大しつつ、また職業資格と学位課程とのつながりについても、組織的な取り組みが開始されている。(ECCTIS, 1991) このように、イギリスでは近年、極めて現代のアメリカの考え方方に類似した学外学位にかかる展開がみられるのである。

2. アメリカにおける学外学位の出現と定義

さて、学外学位はイギリスに発祥し、そこである程度の展開がみられるが、近年の発展が著しいのはアメリカである。アメリカでは学外学位に結びつく動きが1960年代に起こり、1970年以降の大学改革の中で発展していった。J・W・ホールは『革新による機会拡大』という本の中でこう書いている。「1960年代は議論と改革の触媒であったが、1970年から71年のかけての冬に起きた一連の出来事が、教育的興奮を全米に噴出させた。突然に、革新がすべての前線で顕在化した。シラキュースとオクラホマで成人学位課程が成功し、ニューヨークリージェント学位が既存の大学試験プログラム (C P E P) から生まれ出て、準備学習が十分でない (underprepared) 学生のために大学内に移行学年を設定する機会付与プログラムが普及し、カーネギー協会のアラン・ファイファー (Alan Pifer) が『『学外学位』時代が来たか』の問い合わせを投げかけた。エンパイア州立大学 (college), ミネソタ・メトロポリタン, エバーグリーン州立, セントラル・ミシガン大学人格・職業開発施設、壁のない大学 (University-Without-Walls), カリフォルニア・コンソーシアムを含む、新しい、非伝統型の大学が毎月のように出現した。」(Hall, 1991, p. 33)

ベイカーの『30歳をすぎてからの大学』という1992年発行の成人向けの大学案内書ではこう書かれている。「もしあなたが、30年前に、北米に在住したままで、3年間か4年間教室に座ることなしに正統な学位を取得しようと望んだとしたら、ロンドン大学と南アフリカ大学というたった2つの途しかなかった。両者は、現在でも、学士学位から博士学位、専門職学位にいたるまでの在学を要件としない課程 (non-resident programs) 提供している。しかし、今日では、何百もの合衆国中のあるいは世界中の大学から正規の学位を取得することができる。」(Beker, 1992, p. 45) このように、アメリカでは学外学位という言葉は1970年代の大学の革新と関連して使われるようになったのである。

では、アメリカで言われている学外学位とはどんなものなのか。まず、上述のベーカーの本では、学外学位は次のように説明している。「以下の方法で獲得された学位：大学外の学習、試験による単位認定、特別な経験学習課程、自律学習 (self-directed study), キャンパス内の又はキャンパス

外の授業の履修。ある課程では、学習は学位を授与する機関の提供するものでも、その管理下にあるものでもない状況のもとで行われる。一般的に、労働、人生経験、既履修の大学外の教育といった源泉からの学習の証明にもとづいて単位認定がなされる。」(Baker, 1992, p. 195)

この説明に近い定義が、アメリカの教育界で公的といつてもいい性格をもつ大学（入試）委員会 (The College Board) の『大学ハンドブック』にみられる。同書では、学外学位課程 (external degree program) を「学生が自立学習 (independent study), 大学授業, 実力試験, 個人経験によって単位を集めて学位を取得する学習制度。学外学位大学 (external degree colleges) は一般にキャンパスも教室施設ももたない。」(The College Board, 1992a, p. 22) と規定している。また、同じ大学委員会の『専攻及び大学院学位索引』では、学外学位 (external degree) を、「学生が自立学習, 大学授業, 実力試験, 個人経験によって単位を集めて学位を取得する大学レベルの学習課程。学外学位課程は教室への出席をほとんどあるいは全く課さない。」(College Board, 1992 b, p. vii) と同様の定義をしている。

このうち、自立学習 (independent study) は、「学生に、授業に出席して一連の課題を果たす代わりに、自立的な学習によって大学課程の一部の履修とみとめる方式。典型的なやり方としては、学生が指導教員又は委員会の同意のもとに学習計画を立て、定期レポートと最終レポートを提出して評価を受ける。」(College Board, 1992b, p. vii) ものである。

さらに、アメリカの大学団体の代表格であるアメリカ教育協議会が監修する『アメリカ大学総覧』では、学外学位課程を「学位を授与する機関以外の機関での学習に単位を授与する、しばしば制度外の学習を評価する、そして一般的にキャンパス外学習あるいは自律学習に重きを置く学習システム」(ACE, 1987, p. xviii) と定義している。

以上紹介した学外学位の定義は、微妙なニュアンスの差はあるものの、それが学位につながる学習が学位授与主体の外でなされる意味に加えて、多様な学修が評価されるという意味が含まれている。つまり、「はじめに」で示した、①当該大学の外という意味での「学外」で学習した個人に対して、評価によって授与する学位、②通常の面接形態の授業（教室授業）による履修を課さない教育課程という意味での「学外」課程の修了者に対して授与する学位の両方を加味した制度を、かなり大ざっぱに学外学位を呼んでいるのである。

なお、後出の J・P・ダフィーの『大学院に行かずに上級学位を取得する方法』では、大学院レベルについてではあるが、アメリカ大学院評議会 (CGS: Council of Graduate Schools) の以下の定義を用いている。「学外大学院学位 (external graduate degree) は伝統的な在学学習 (residential study) 方式を中心としない、しかし認知された学士号の保持者のみに開かれた（個人あるいは教育機関が考案した）一定の用意された課程を基礎に個人に授与される学位。」(Duffy, 1994, p. 6) この定義では、教室授業を課さないという点では上述の定義と一致しているが、他の定義が強調している単位認定上の評価対象が多様にあること点の指摘がない。

最後に紹介する定義は、D・W・スチアートとH・A・スピルの共著の『ディプローマ・ミル（学位記工場）—いんちき学位—』の学外学位の説明を引用しておこう。「学外（または拡張 (extended)）学位は教育機関が設計したか、個人が機関の教員の指導のもとで考案し機関に承認さ

れた組織的な教育課程を修了した者に対して授与されるものである。学位の為の学習の大部分は、伝統的な、キャンパスを基礎とした教室での在学学習以外の手段、つまり自立読書 (independent reading), 通信学習, 教員の評価を受けるリポートの準備, プログラム学習やコンピュータやテレビ媒体の利用, 契約学習 (contact learning) などの手段で修めることができる。基本的には、学外学位は内容の上で新しい型の学位なのではなくて、非伝統的な手段での学習の修了によって取得できる学位なのである。」(Stewart & Spille, 1988, pp. 51-52) この本は、大学制度の革新につけてこんだ詐欺的な学位商売に立ち向かうために書かれているので、この学位制度が組織的な教育課程を前提にしていることを指摘し、内容的な水準は通常の学位と違いではなく、異なるのは学習の手段であることを強調するなど、その記述は慎重である。

また、学外学位という概念の周辺には、非伝統的 (nontraditional), 革新的 (innovative), 代替 (alternative) といった言葉が使われている。これらの用語も、はっきりした定義は難しいが、ここではダフィーの前掲書の中のこれらの用語に関する説明の部分を引用しておく。「あなたが伝統的ではない方法で大学院学位を取得しようすると、様々な特殊な語句に出会うことになる。それらの内、最も一般的なのが、非伝統的または革新的課程（現在ではこれらは広い範囲の課程を表す同義語として使われている）、学外学位課程、代替教育である。／ある大学で自立学習と称しているものが、他では非伝統的と呼ばれている。運営方法が相互にほとんど関係のない二つの課程が両方とも非在学 (nonresidential) と表現されている可能性がある。通信授業科目 (correspondence courses) を実施している大部分の大学で、自立学習 (independent study) 課程は単位認定を受けられる通信授業科目を基礎としている。しかし、自立学習という言葉は通信授業科目とは無関係の課程を指している場合もある。大学によっては通信授業科目という言葉の使用をやめており、かわりに同じ方法で運営する授業科目が遠隔授業科目 (distance learning course), 教員指導授業科目 (faculty directed course) その他半ダースほどの言葉で呼ばれている。／学外学位課程においては、学生個人が教育課程 (curriculum) の開発に一定の役割を果たし、課程は典型的な教室授業への出席 (class participation) に基礎を置かず、他の環境で獲得された学習を認定する。しかし、多くの場合、教室授業への出席という意味は曖昧である。いわゆる学外学位課程には『学外』の意味が失われるほど多くの教室授業またはセミナーへの出席を要求するものがある。反対に、『自立』とか『革新的』と呼ばれている課程でも、実際は全面的な学外学位課程であり、多くが全くキャンパスで過ごす時間を要しないものである場合がある。」(Duffy, 1994, pp. 33-35)

3. 学外学位の開設大学

大学委員会の『専攻及び大学院学位索引』（以下『専攻索引』）には、表1の様に、170大学が学外学位 (external degree) 実施校として掲載されている。（The College Board, 1992b, p. 622-623）この内の164校は地域・機関アカレディテーション協会の認定校である。この地域協会の認定校についてみてみると、まず州別では、アラスカ、デラウェア、アイダホ、ルイジアナ、ミシシッピ、モンタナ、ネバダ、ノースダコタ、ワイオミングの9州を除く41州と首都ワシントンに学外学位の課程をもつ大学がある。164校のうち、約半数（83校）は公立、約半数（81校）は私立である。

私立の中には、地域アカデミック認可を受けた専修学校（proprietary school）であるフェニックス大学（University of Phoenix）とハッサー大学（Hassler College）2校が含まれる。164大学のうち短期大学は19校で、4年制大学（前期課程をもたないものも含む）のほうが圧倒的に多い。

これらの大学のうち、通常の在学生をもつ大学が学外学位課程を開設しているというものが大部分であるが、通信制に多く依存する大学や、エンパイアステート大学 (Empire State College) のように自立学習を主体とした大学、また後述のリージェント大学 (Regents College) のようにまったく教育機能をもたない学外学位機関もある。

これらの大学で、どのレベルの、どういった種類の学位が出されているか、その要件、実績はどういうものかについては、『大学ハンドブック』などの記述からでは十分なことがわからない。次章でとりあげるリーシェント大学の場合は個別の調査実施したのでかなりわかっている部分があるが、全体の状況については今後十分な調査が必要とされる。

表1 学外学位課程開設大学一覧

Alabama	Southeastern University
Judson College	
Southeastern Bible College	
Troy State University at Montgomery	
University of Alabama	
Arizona	
Prescott College	
University of Phoenix	
Arkansas	
Shorter College	
California	
California Polytechnic State University: San Luis Obispo	
California State Polytechnic University: Pomona	
California State University	
Bakersfield	
Chico	
Dominguez Hills	
Hayward	
Christian Heritage College	
La Sierra University	
Oxnard College	
Queen of the Holy Rosary College	
St. Mary's College of California	
San Diego State University	
Sonoma State University	
University of San Francisco	
Colorado	
National College	
University of Northern Colorado	
University of Southern Colorado	
Connecticut	
Charter Oak College	
Quinnipiac College	
University of Bridgeport	
District of Columbia	
Florida	
Eckerd College	
Nova University	
Pensacola Junior College	
Southeastern College of the Assemblies of God	
University of South Florida	
Georgia	
Abraham Baldwin Agricultural College	
Covenant College	
Fort Valley State College	
Georgia College	
West Georgia College	
Hawaii	
University of Hawaii: Kapiolani Community College	
Illinois	
Governors State University	
KAES College	
Northern Illinois University	
Roosevelt University	
Southern Illinois University at Carbondale	
Trinity Christian College	
Western Illinois University	
Indiana	
Indiana Institute of Technology	
Indiana University	
Bloomington	
East	
Kokomo	
Northwest	
South Bend	
Southeast	
Indiana University—Purdue University	
Fort Wayne	
Indianapolis	

Oakland City College	Hesser College
St. Mary-of-the-Woods College	New Jersey
Iowa	Caldwell College
Graceland College	Mercer County Community College
Iowa State University	Thomas Edison State College
Teikyo Marycrest University	New Mexico
University of Iowa	College of Santa Fe
University of Northern Iowa	New York
Upper Iowa University	New York Institute of Technology
Kansas	Nyack College
Allen County Community College	Skidmore College
Bethel College	State University of New York
Donnelly College	College at Brockport
Friends University	Empire State College
Kansas City Kansas Community College	Syracuse University
Kansas State University	University of the State of New York: Regents College
Pittsburg State University	Utica College of Syracuse University
Kentucky	North Carolina
Murray State University	University of North Carolina at Charlotte
Maine	Ohio
St. Joseph's College	Antioch School for Adult and Experiential Learning
Maryland	Dyke College
Columbia Union College	Kent State University: Ashtabula Regional Compus
University of Maryland University College	Ohio University
Massachusetts	Athens
Atlantic Union College	Chillicothe Campus
Framingham State College	Eastern Campus
Lesley College	Union Institute
University of Massachusetts at Amherst	Oklahoma
Michigan	Oklahoma City University
Baker College of Port Huron	Oklahoma State University
Central Michigan University	Oral Roberts University
Ferris State University	University of Oklahoma
Northwood Institute	Oregon
Siena Heights College	Eastern Oregon State College
Spring Arbor College	Linfield College
Minnesota	Warner Pacific College
Bemidji State University	Pennsylvania
Bethel College	Elizabethtown College
Moorhead State University	ICS Center for Degree Studies
St. Mary's College of Minnesota	Luzerne County Community College
University of Minnesota: Morris	Marywood College
Winona State University	University of Pittsburgh
Missouri	Rhode Island
Berean College	Roger Williams College
Culver-Stockton College	South Carolina
Hannibal-LaGrange College	Benedict College
Lindenwood College	Central Wesleyan College
Stephens College	South Dakota
Nebraska	Presentation College
Bellevue College	Sioux Falls College
Chadron State College	University of South Dakota
Clarkson College	
Wayne State College	
New Hampshire	Tennessee

Tennessee Temple University	Radford University
Tomlinson College	Washington
Vanderbilt University	City University
Texas	Clark College
Northwood Institute: Texas Campus	Eastern Washington University
St. Edward's University	Skagit Valley College
Southwestern Adventist College	West Virginia
Southwestern Assemblies of God College	Shepherd College
Utah	West Liberty State College
Brigham Young University	West Virginia State College
Utah State University	Wisconsin
Vermont	Mount Senario College
Burlington College	Silver Lake College
Community College of Vermont	University of Wisconsin
Goddard College	Green Bay
Johnson State College	Platteville
Norwich University	River Falls
Virginia	Superior
Liverty University	Whitewater
Mary Baldwin College	
Patrick Henry Community College	(College Board, 1992b)

なお、学外学位の概観がわかる民間のガイドブックとしてはJ・P・ダフィーの『大学に行かずに大学学位を取得する方法』(How to Earn a College Degree without Going to College)と前出の『大学院に行かずに上級学位を取得する方法』(Duffy, 1994)の2書があるが、本稿の執筆時点で筆者が参照できたのは後者のみである。後者の書では、表2に示した50大学におかれた約150の大学院課程のプロフィールが記述されている。

表2 ダフィーのガイドブックに掲載の大学院レベル学外学位課程開設大学

× American College 修士
× Antioch University 修士
× Auburn University 修士
× Boise State University 修士
× California College for Health Sciences 修士
× California Institute for Integral Studies 博士
○ City University 修士
× College of St. Scholastica 修士
× Colorado State University 修士
× Columbia University 博士
× Embry-Riddle Aeronautical University 修士
○ Empire State College 修士
× The Fielding Institute 修士, 博士
○ Goddard College 修士
× Hofstra University 修士
× Idaho State University 博士
× International School of Information Management 修士
○ Lesley College 修士

- Liberty University 修士
- Lindenwood College 修士
- ×Loma Linda University 修士
- ×National Technological University 修士
- ×Mankato State University 修士
- ×Moody Graduate School 修士
- ×New School of Scocial Research 修士
- Nova Southeastern University 修士, 博士
- ×Ottawa University 修士
- ×Princeton Theological Seminary 博士
- ×Regis University 修士
- ×Rochester Institute of Technology 修士
- Saint Joseoh's College 修士
- Saint Mary-of-the-Woods College 修士
- ×Salva Regina University 修士
- ×Saybrook Institute 修士, 博士
- Skidmore College 修士
- Syracuse University 修士
- ×Trinity University 修士
- Union Institute 博士
- University of Alabama 修士
- ×University of Idaho 修士
- ×University of LaVerne 博士
- University of Massachusetts 修士
- ×University of Minnesota 修士
- ×University of North Carolina, Chapel Hill 修士
- University of Oklahoma 修士
- University of Phoenix 修士
- ×University of Sarasota 修士, 博士
- ×University of Wisconsin, Madison 修士
- ×Vermont College 修士
- ×Walden University 博士

(『専攻及び大学院学位索引』掲載大学○, 非掲載大学×)

この50大学の内、『専攻索引』に掲載されている大学はわずか16校で、後の34大学は掲載されていない。これは、両者の学外学位の定義の違いによるものと考えられる。

なお、ダフィーのリストによると、どの課程も相当量の学習を当該大学で行うことを義務づけており、他大学の学習の単位認定を全く行わない課程すらある。つまり、このリストの範囲では、当該大学での履修を要件としない大学院課程は存在しないことになる。いづれにしても、より綿密な調査が必要とされる。

4. リージェント大学の状況

学外学位大学の代表格と目されるものにリージェント大学がある。この大学については、本紀要

の第1号の拙稿で、その概況について紹介しているので、ここでは、それとの重複を最小限におさえながら、同大学の仕組みと実績について解説する。リージェント大学の正式名称は、ニューヨーク州教育評議会（U S N Y）リージェント大学（The University of the State of New York Regents College）という。この大学は、同大学の自己評価報告書で「リージェント大学は評価機関（assessment institution）である。事実上、この大学は評価を専業としている合衆国内で唯一の機関である。この大学は学生を教育（teach）しない」（Regents College, 1992, p. 1）と記述されているように、教室授業は言うに及ばずあらゆる形態授業を行わず、当該大学の外で行われた学習の評価のみにもとづいて学位を授与している。他の学外学位課程が、通常の課程を持つ大学に置かれたり、通常の課程はないが教室授業以外の何らかの教育手段をもっているのに対して、この大学は完全に教育機能をもたない点に特色がある。

同大学は、U S N Yの評議員会が「何を知っているかが、その知識をどこで、どうやって獲得したかよりも重要である」を理念として、1970年に州教育省内に設立した実験プログラムで、当初はリージェント学外学位プログラムと称した。（Regents College, 1992）1991年に評議員会は同大学の永続化と州教育省からの独立を決定した。このようにこの大学への州の関与は大きいが、設置形態としては私立に属する。（Regents College, 1992, p. 1）

この大学が出している学位は、現在のところ、自由学芸、看護、商業（business）、技術（technology）分野の準学士号と学士号である。これらの学位を取得するため、単位認定される学習の種類を表3に示す。学生は、このように多様な手段を通じて学習を進めることができるが、学生は上記の学位に種類に応じた履修要件に従って学習を進めなければならない。これらの要件については、本紀要の次号で紹介する予定である。

表3 リージェント大学での単位認定される学習の種類（単位の源泉）

I 地域アクレディテーション協会認定大学
A. 授業（1971）
1. 教室授業科目
2. 通信授業科目、例えば
a. インディアナ大学
b. オハイオ大学
c. ペンシルベニア州立大学
d. ネブラスカ大学リンカーン校
3. 電子通信手段を用いた遠隔授業科目
a. ビデオテープ
b. オーディオテープ
c. コンピュータを基礎とした授業科目
d. テレビ／テレコース
B. 特別な源泉
1. 地域アクレディテーション協会認定大学での授業科目担当（1972）
2. 地域アクレディテーション協会認定外の専門職大学の特別単位認定手続き（1974）
3. 公認の外国資格評価者の評価を受けた外国の高等教育機関（1981）
4. ニューヨーク州教育省が学位授与機関として認定した地域アクレディテーション協会認定外大

学 (1972)

II 大学レベルの実力試験

- A. ACT/PEP (アメリカ大学テスト協会/実力試験プログラム)
RCE (リージェント大学試験)
CLEP (大学レベル試験プログラム) (1971)
- B. DANTEs (国防省非伝統型教育支援活動) (1972)
- C. GRE (大学院入学共通試験) 科目テスト (1974)
- D. アメリカ教育協議会 (ACE) 認定の専門職業資格及び免許試験
- E. 地域アカデミーテーション協会認定大学の試験プログラム、例えば
 - 1. オハイオ大学
 - 2. ノースカロライナ大学
 - 3. トマスエジソン大学試験プログラム
 - 4. NYU 繼続教育言語試験 (1991)

III アメリカ教育協議会 (ACE) によって大学単位として評価された軍事経験 (1972)

IV アメリカ教育協議会 (ACE) の非大学機関教育プログラム (PONS) 又はニューヨークPO
NSI によって評価された商業/産業訓練 (1974)

V リージェント大学教授団の大学外学習評価

- A. 海軍原子力学校 (1985)
- B. FAA (連邦航空管制) 資格免許 (1975)
- C. ヘフライ大学エルサレム校試験 (1974)

注：リージェント大学自己評価報告書 (Regents College, 1992, p.18) の表の翻訳であり、ACE/PEP及びRCEは表にはないが当然ここに記載されるべき事項であるので補った。

表3の()内の数字は、当該の学習が学位用単位として認定されるようになった年を示す。一部不明の項目もあるが、これによると、当初地域アカデミーテーション協会認定大学の授業と全国試験から始まった認定学習の範囲が、地域協会認定外の大学での学習、軍事訓練や商業/産業訓練、外国の大学での学習へと拡大し、多様な学習の機会が認定の対象となってきた様子がわかる。

大学入試委員会の『大学ハンドブック』の記述によると (College Board, 1992a, p.1098), この大学の1991年現在の登録者数は12,668人（男6,028人、女6,640人）、1991年の学位授与数は準学士1,535件、学士2,621件、準学士の46%が健康科学、52%が多元/学際研究、学士の10%が商業・経営、10%が健康科学、76%が多元/学際研究となっている。

このように、授与されている学位の圧倒的な部分が、多元/学際研究であり、専門職分野の比率はあまり高くない。表4は、専門分野ごとの卒業率及び在籍継続率を示しているが、1984—85年から1988—89年までの学士課程入学者の内、1990年までに自由学芸では4割から6割が卒業しているのに、看護や技術では1割前後、商業では2割前後しか卒業していない。また、準学士についても、自由学芸では7割から8割が卒業しているのに、看護では3割前後、商業では1割から2割、技術では1割に満たない割合しか学位を取得していない。

もっとも、この機関に学位を取れなくても在籍を続けている者もいるわけだが、この制度が厳しく運用されている様子が伝わってくるデータといえよう。

表4 リージェント大学の専門分野ごとの卒業・在籍継続率(1990年7月現在)

年 度 (新入学者数)	1984/85 (8,585)	1985/86 (9,096)	1986/87 (7,731)	1987/88 (8,040)	1988/89 (8,383)
AA/A S (自由学芸)					
卒 業 率	69.3%	74.2%	81.5%	72.9%	72.5%
在籍継続率	70.4	75.4	84.2	78.3	85.2
AA/A A S (看護)					
卒 業 率	30.2	35.1	38.1	36.8	26.3
在籍継続率	33.4	40.8	45.9	52.8	67.2
A S (商業)					
卒 業 率	n/a	20.6	20.4	10.3	16.9
在籍継続率	n/a	25.0	29.6	42.6	53.5
A S (技術)					
卒 業 率	0.8	2.3	3.0	1.8	5.2
在籍継続率	21.8	8.8	22.3	22.8	44.3
準学士全体					
卒 業 率	45.9	52.3	54.2	50.4	43.3
在籍継続率	48.8	55.8	60.5	62.4	73.2
B A/B S (自由学芸)					
卒 業 率	48.8%	54.8%	59.2%	54.5%	44.7%
在籍継続率	52.4	60.2	66.6	69.0	78.1
B S (看護)					
卒 業 率	17.3	13.0	13.4	11.0	4.8
在籍継続率	27.6	27.9	35.0	41.6	60.8
B S (商業)					
卒 業 率	16.9	20.6	22.5	20.9	19.1
在籍継続率	22.6	28.0	35.0	44.0	68.1
B S (技術)					
卒 業 率	17.1	13.8	14.3	13.1	7.7
在籍継続率	37.6	28.3	41.5	49.6	68.8
学士全体					
卒 業 率	32.8	34.8	39.4	38.0	31.0
在籍継続率	39.7	43.7	52.7	58.5	72.9
全 体					
卒 業 率	38.0%	42.2%	45.2%	43.1%	36.3%
在籍継続率	43.3	48.8	55.7	60.1	73.0

注：在籍継続率は、卒業率と現役在籍率の合計比率。

おわりに

以上、アメリカの学外学位課程の概況を報告したが、個々の大学における具体的な仕組みと位置づけ、実施状況等については『専攻及び大学院学位索引』掲載の170大学を中心にアンケート調査を企画している。また、大学外学習の単位認定にかかわってはPONS Iや経験学習の評価法については調査結果をまとめ中であり、リージェント大学の履修要件と合せて本紀要の次号に掲載予定である。

参考文献

〔英文〕

- Baker, Sunny and Kim *College After 30*. Massachusetts: Bob Adams, 1992.
- College Board, The *The College Handbook*: 1993. The College Board, 1992a.
- College Board, The *Index of Majors and Graduate Degrees*: 1993. The College Board, 1992b.
- Duffy, James P. *How to Earn an Advanced Degree without Going to Graduate School*. John Wiley & Sons, Inc. 1994.
- ECCTIS *Educational Credit Transfer*. 1991.
- Hall J. W. *Access Through Innovation*. ACE/Macmillan, 1992.
- Kerr, Wdwin & Pollard, Derek *Setting the Scene: Credit Accumulation and Transfer Systems-The Current Scene*.
- London, The University of *The University of London*; 1994.
- Regents College *Regents College; Access, Excellence and Change*. (Prepared for the Middle States Association of Colleges and Schools), 1992.
- Stewart, D. W. & Spille, H. A. *Diploma Milles; Degrees of Fraud*. New York: ACE/Macmillan, 1988.

〔邦文〕

- 館昭「アメリカの学位授与機関（リージェント大学）の仕組みと現況」『学位研究』No.1, 1993年。
安原義仁「ロンドン大学学外学位制度について」『学位研究』No.1, 1993年。

[ABSTRACT]

An Overview of External Degree Programs in U. S. A.

Akira TACHI*

This article overviews external degree programs in the U. S. higher education. The term "external degree program" is defined by the College Board in "The College Handbook" as a system of study whereby a student earns credit toward a degree through independent study, college courses, proficiency examinations, and personal experience. It also suggests that external degree colleges generally have no campus or classroom facilities. The definitions by others are examined to show that this category is new and has not fixed.

Though the term comes from the program for external students of the University of London, U. K., which is almost one hundred years old, American external programs emerged from the innovation of 1970s of higher education. Now we can find 170 universities and colleges which have external degree programs in "Index of Majors and Graduate Degrees" published by the College Board. "How to Earn an Advanced Degree without Going to Graduate School" written by Duffy, J. P. lists almost 150 graduate programs of 50 universities.

This paper introduces the practice of the University of New York Regents College which is the only institution of higher education in the U. S. devoted exclusively to assessment and does not teach its students as a good example of external degree colleges. The introduction of this college is the sequel to my article in the previous volume of this journal.

This article is one of the results of the projects funded by the Tokyo Club and the Ministry of Education, Science and Culture.

* Professor, National Institution for Academic Degrees